

お薬のしおり

新型インフルエンザ[☆]について No.86 (H20.12)

東京医科大学病院 薬剤部

近年、鳥インフルエンザ(H5N1)が鳥から人に感染する事例が東南アジアなどで数多く報告されています。この鳥インフルエンザウイルスが変異し、人から人へ効率よく感染するようになったものを新型インフルエンザウイルスと呼びます。

この新型インフルエンザウイルスに対しては、人類のほとんどが免疫を持っていないために、容易に人から人へ感染します。現時点ではこのようなウイルスの発生は確認されていませんが、世界的大流行(パンデミック)が引き起こされ、大きな健康被害とこれに伴う社会的影響が懸念されます。

新型インフルエンザウイルスはいつ出現するのか、誰にも予測することはできません。過去の例の一つとしてスペインインフルエンザ(1918年~1919年)があります。世界中で流行し、日本でも2300万人が感染し、39万人が死亡したと記録されています。その記録から、新型インフルエンザの大流行が起こると多くの人が感染し、医療機関は患者であふれかえり、国民生活や社会機能の維持に必要な人材の確保が困難になるなど、様々な問題が生じる可能性もあります。

新型インフルエンザの症状は？

新型インフルエンザに変異することが懸念されている高病原性鳥インフルエンザ^{こうびょうげんせい}の症状としては、これまで東南アジアなどでの事例では、発熱、咳など、ヒトの一般的なインフルエンザと同様の症状に加え、下痢を認めた例もありました。また、致死率は60%以上と極めて高く、肺炎が主な死因となっています。しかし、高病原性インフルエンザウイルスが人から人へ感染する新型インフルエンザウイルスに変異した場合、その症状の程度は、現在のところ予測が困難です。

新型インフルエンザの予防は？

通常のインフルエンザは、感染した人の咳、くしゃみ、つばなどの飛沫^{ひまつ}とともに放出されたウイルスを吸入することによって感染します。そのため、外出後の手洗い、マスク



の着用、流行地への渡航、人混みや繁華街への外出を控えること（^{ふようふきゅう}不要不急の外出の自粛^{じしゅく}）が重要です。また、十分に休養をとり、体力や抵抗力を高め、日頃からバランスよく栄養をとることも大切です。

インフルエンザは容易に人から人に感染するため、他人にうつさないことも重要です。インフルエンザに感染して症状のある人は、病気の悪化や周囲への感染を防ぐために、自宅で休養することが重要です。他人に接しなければならない場合は、咳やくしゃみをする際にはティッシュで口元を覆うか、マスクを着用することが重要です（咳エチケット）。

また、新型インフルエンザの患者と密に接する機会があり、感染している可能性がある方々に対しては、発症前に抗インフルエンザ薬を内服することで、発症の危険性を抑える予防方法（予防投薬）を実施することも検討されています。

新型インフルエンザにワクチンは有効？

通常のインフルエンザワクチンは、新型インフルエンザとはウイルスの種類が異なるため、感染防止の効果はほとんど期待できないと考えられています。

新型インフルエンザに対して効果が期待できるワクチンとして、政府は現在流行している鳥インフルエンザウイルス（H5N1）に対するワクチンをプレパンデミックワクチンとして製造、備蓄しています。しかし、このプレパンデミックワクチンは、現在流行している鳥インフルエンザに対するワクチンで、新型インフルエンザに対する有効性が完全に確立しているものではありません。また、予防接種では一定の割合で人体に有害な副反応が出現することが避けられず、不必要な接種は避けるべきと考えられています。そのため、実際にワクチン接種を開始するのは、新型インフルエンザの発生が確認されてからになる予定です。

新型インフルエンザの治療薬はあるの？

新型インフルエンザの治療薬としては、通常のインフルエンザ治療に用いられているノイラミニダーゼ阻害薬が有効であると考えられています。ノイラミニダーゼ阻害薬には、経口内服薬のリン酸オセルタミビル（商品名：タミフル）と経口吸入薬のザナミビル水和物（商品名：リレンザ）があります。

より詳細な新型インフルエンザ等に関する情報は、厚生労働省のホームページに掲載されています。また、新型インフルエンザ等感染症相談窓口が設置されています。

